

米価大暴落

彩のかがやき

7千円

一俵60kg

前年比：下落4200円・38%減

「米価の安定対策」を求める意見書

平成26年産米は、農協や業者の取引価格が前年を4千円程度も下回り、コシヒカリ一俵当たり8千円台の大暴落となっている。

販売農家や集落営農組織は、平成26年産米から適用された米の直接支払交付金の半減や米価変動補填交付金の廃止のもとで、現在もなお生産費を大幅に下回っている米価の暴落が続くなら、再生産が根底から脅かされることになる。とりわけ、担い手層の経営への打撃は、計り知れないものがある。

特に、「埼玉一の米どころ」の当市においては、米価暴落は、農家は勿論のこと、地域経済に甚大な影響を及ぼすことは必至である。

政府は、飼料用米の生産・利用の拡大を図るため、助成制度を手厚くする等し、主食用米からの転換を推進しているが、対策の初年度ということもあり、マッチング、貯蔵、調整施設等が未整備であり生産現場で十分な対応が出来ない事態にある。

そもそも、この間の米価の下落は、平成25年・26年度における米穀の需給及び価格の安定に関する基本指針を決定した平成25年11月開催の食料・農業・農村政策審議会食糧部会において、平成26年6月末在庫量が2年前に比べて、75万トンも増える見通しを政府は認識していたが、対策を講じなかったことに原因がある。

また、「攻めの農林水産業のための農政改革」で5年後に政府が需給調整から撤退する方針を打ち出したことも追い打ちをかけている。

主食の米の需給と価格の安定を図るのは政府の重要な役割である。よって、過剰基調が明確になっている今日、政府の責任で需給の調整を行なうべきであり、緊急に対策を講じる必要がある。

以上の趣旨から、政府に対し、下記事項の実施を強く求める。

記

平成26年産米の米価暴落に鑑み、政府は、緊急に過剰米処理を行なう等、米価安定対策を早急に講じること。

以上、地方自治法第99条の規定により意見書を提出する。

平成26年10月6日

埼玉県加須市議会

提出先 衆議院議長
参議院議長
内閣総理大臣
財務省
農林水産大臣

加須市議会



政府に意見書

「米価の安定対策を」

2014年産米は、コシヒカリ一俵8千円、彩のかがやき7千円の大暴落。埼玉一の米どころをあずかる加須市議会は、9月市議会最終日（10月6日）の本会議で、日本共産党が紹介議員となつて提出した「米価の安定対策を求める請願」を全会一致で採択しました。これを受けて、「米価の安定対策を求める意見書」（左）が可決され、安倍首相をはじめ財務大臣、農林水産大臣、衆参両院議長に送付されました。意見書は、「生産費を大幅に下回っ

ている米価の暴落が続くなら、再生産が根底から脅かされる。農家は勿論のこと、地域経済に甚大な影響を及ぼすことは必至。政府は、緊急に過剰米処理を行う等、米価安定対策を早急に講じること」を強く求めています。主食の米の需給と価格の安定を図るのは、政府の重要な役割です。農家が再生産できる米価にすることは、国の責任です。日本共産党議員団は、農家のみなさんが安心して米作りができるよう、引き続き力を合わせます。

情報を日々発信中！

さえきよしえ活動日記

検索

日本共産党加須市議団HP

検索

メール saeki-peace@plum.ocn.ne.jp

市政へのご意見ご要望、生活相談はさえき議員まで 加須市上種足1322-1 Tel 0480-73-1607



農家がピンチ

今年だけで

減収22億円

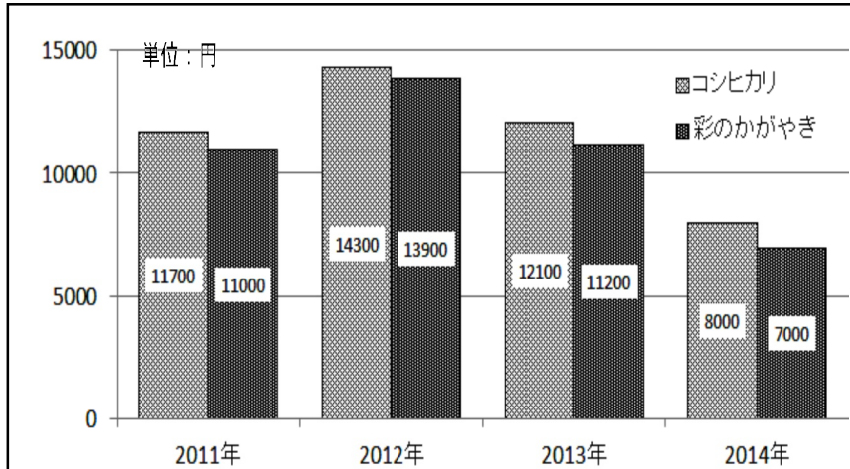
共産党議員団

「市長が政府に米価安定対策の声を」

なぜ、今年米価の大暴落が発生したか。それは大量の余剰米を保有しているからです。報道によれば、年間の米消費量は800トン。これに対し、政府の備蓄米は、110トン〜120トン。このうち40%は4年以上経過した超古米。これを飼料米に回し、新たに備蓄米を購入し、政府が「米の価格安定に責任を持つ」という姿勢を明確にすれば、需給関係が決まる

米価は、安定につながることは間違いない。9月市議会の本会議（先月6日閉会）で、日本共産党議員団は米農家の窮状を訴え、大橋良一市長に対し、市長が政府に米価安定対策の声をあげ、農家に「農家を守る」というメッセージを発し、激励するよう提案しました。大橋市長は、「米価の低下がここまで急激に下がるのは、衝撃的

な出来事。これでは、加須市が沈滞化することを懸念している。担い手が大きな打撃を受けている。400万円〜1千万円とんでいってしまう」と懸念している。米作りは守っていかなければならない、と信念を持っている。県・国を含めて、きちんとした対応をしなければ、大きな社会問題になるのではないか。問題意識を持って、対応していきたい」と答えました。



かつてない米価大暴落で21億円減

【農協の概算金の推移】
 今年は米価がかつてない大暴落です。「ほくさい農協」の概算金が一俵60kg当たり、コシヒカリで8千円、彩のかがやきで7千円です。
 昨年も米価は大暴落で、市は市内全体で9億5千万円の減収と試算しています。
 今年はさらにコシヒカリはマイナス4100円（33・8%）、彩のかがやきに至ってはマイナス4200円（37・5%）も下落。昨年をもとに試算すると、今年の減収は、なんと21億円にも上ります。
 農水省の調査で、米の生産費は、一俵当たり1万6千円です。このうちの3割が労働費です。労賃どころか、肥料代、農機具代にもなりません。

さらに交付金1億円減

さらに、昨年まで一反（10アール）当たり1万5000円出されていた「直接支払交付金」が今年産から半額にバツサリ。減収額は市内全体で約1億円です。

2年間で32億円減

このように、今年は米価の大暴落と交付金の半減が重なって、市内全体で22億円の減収です。昨年の米価暴落を加えると、市内の農家は、2年間で約32億円にのぼる大幅な減収となります。市内の認定農家の7割が、年間農業収入が500万円以下です（市農業ビジョン）。米価大暴落で手取り収入が200〜300万円の大暴落減収となります。

生産者が悲鳴

- ◆高齢でやっとやっている。来年はもうやめる。
- ◆今でも耕作放棄地が多い。来年は田んぼがもっとあく。そうなら簡単には戻らない。
- ◆小作料1万円、水利費7千円、これでは払えない。借りていた田んぼは返す。みんなもそう言っている。
- ◆今年から、国の交付金も半分7500円になった。踏んだり蹴ったりだ。
- ◆米がこんな安いのに、店頭価格は変わらない。農家だけがバカを見る。
- ◆「暮れの餅つきはできない」と親戚に伝えた。餅米が高く買っていかない。
- ◆店に来る農家の客がこぼれていく。これじゃ、こっちの商売もあがったりだ。
- ◆こんなに下がって本当にガッカリだ。自民党をブツブツしてくれ。